

『食糧支援活動奉告』

この度はコスモス奨学金（千葉県に本部、代表は鈴木康夫）が運営するスリランカの食糧事情に困窮している家庭に食料支援する取り組みに支援金を寄せていただき、誠にありがとうございました。支援金総額は160万円となり、それを基金として、その利息で12家族に毎月お米10kgが届くようになっていました。本年1月9日～16日までスリランカ里子訪問ツアーに参加した折、食糧支援を受けている家族のうちの3家族を訪問し、直接お米を渡しました。お米10kgは日本円では600円～700円ほどです。スリランカの家族は日本のような核家族ではなく、おじいちゃん、おばあちゃんがいて、子どもが3人ぐらいいる7人家族（それ以上の家族もあり）が多いようで、10kgのお米は足りない量ですが、僅かな支援ですが心から感謝されました。スリランカでは感謝の気持ちを接足礼（両膝、両肘、額を地につけ尊者、仏像などを拝すること。最高の礼法。五体投地）で表します。初めて接足礼を受けると驚き、どうしたらいいのかと戸惑ってしまいます。スリランカを訪問して感じることはスリランカ人は感謝の念がとても深く、どんな小さなことにでも感謝し、それが相手に大きな力を与えることがわかりました。また、自分以外の困っている人がいれば、その人（その家族）と分かち合うことも当たり前で、仏教が生活の中に息づいていると感じました。私には里子が5人いますが、私と会うことをとても楽しみにしていて、再会したときの喜びの表情、笑顔は胸がキュンとして熱くなります。里子支援では貧困家庭の中にあり、向学心、志があり、それに向かって勉強している成績優秀者の学費等を支援しています。1人の子ども支援金は月額1000円です。1000円の価値観が変わり、今ではコンビニでの無駄遣いがなくなりました。里子のことを考え、一人ひとりの顔を思い浮かべると、「がんばろう」と元気が湧いてきます。応援している側なのに元気で勇気もらっています。今、スリランカ支援ができて嬉しいのは「ジャヤワルダナ」という初めて耳にしたことばでした。調べが進む中で日本が受けた大恩を知り、じっとしていられなくなり今に至っています。日本人が恩知らずで心の貧しい国民とならないように知らしめていきたいです。今後ご支援、ご指導宜しく願いいたします。ありがとうございました。

令和2年1月吉日 高野修滋

スリランカ食糧支援基金「ネルン・マラ」基金で支援する子どものリスト

名前	地域	里親
① CF293 Udara	クールネガラ	片岡
② CF297 Dilshan	ガンパハ	熱田
③ CF300 Mathushi	クールネガラ	佐々木
④ CF303 Dulmini	アヌラダプラ	向後
⑤ CF308 Omesh	ガンパハ	福島有里子
⑥ CF316 Shenal	ガンパハ	佐藤清
⑦ CF273 Dehemi	クールネガラ	向後
⑧ CF215 Heshan	ケーゴール	勝地
⑨ CF299 Madhushani	ガンパハ	佐々木
⑩ CF291 Dewmini	ガンパハ	石田尚子
⑪ Cf306 Kalpanee	クールネガラ	篠原
⑫ CF295 Rashni	マータラ	大久保



接足礼を受けているところ→

感謝の表情は穏やかです



木南一志様

12. 2. 1. 29

新宮運送の皆様

スリランカ食糧支援にご支援くださり誠にありがとうございました。直接
数家族に届けました。厚く厚く
感謝されました。仏教の心、慈悲の
心か生活の中にあリ、ハカち合おう。
他者も思いやることか当たり前です。
日本では物があふれ、自分か欲する
ものが手に入ることか当たり前で、
心の領域か狭くなっています。子ども
たちの少女に心洗われました。感謝。